

# 高津高校在学中の1年生～2年生1学期までの先生の思い出

2023年3月24日

太田 隆次

私は本来ならば皆様と同じく昭和25年入学、同28年卒業の筈でしたが、家庭の事情で昭和26年夏2学期から、実家のある岡山県の玉野高校に転校しました。

家庭の事情とは、家業の造船を含む木造船（はしけ）による大量輸送業が、折柄の流通革命で運送の主役が少量で小回りの利くトラック輸送に変わった事でした。現在の「クロネ

コヤマト運輸」の「子猫と一緒にの母猫」のトラックの時代になっていました。高津高校の生徒手帳の昭和25年版の私の親の職業欄の「造船業」が翌昭和26年版には「無職」となり、「悠々自適ですか」と冷やかす友人もいました。

荒木先生（体育）は、健康不安におののく、現在の私達高齢者に「君たちの健康教育は大丈夫か」とあの元気な声で呼び掛けてくれています。

実技で何を習ったのかは思い出せませんが、「何事も健康が第一だ、いくらパリパリのカッターシャツを着いても体が健康でないと駄目だ」が決ま



り文句でした。（私は、カッターシャツという言葉がこの時はじめて聞きました）

先生のこの持論が高津新聞の昭和25年6月25日号に出ていますが、コピーが不鮮明なのと、昭和は遠くなりにはけり、当時少年少女、現在高齢者には分かり難い言葉や表現もあります。下に原文のまま書き写します。注釈も加えましたので、先生の意図と大意をご理解くださると幸いです。

「荒木重実先生」の投稿（高津新聞：昭和25年6月22日木曜日）から：

テーマ「体育と健康教育」

#### 一、 体育の重要性（体育の原点は生命にあり）

体育が、我々の健康を一つの目標とする以上、当然、生命の発展へと結合するものである、体力の増進、精神の鍛練というも、この「生命」のいくばくかでも離れては考えられないのである。

「体育」の出発の根底としてまず「生命」があることを忘れてはならない。真に生命というもの、言い換えれば根底の自己、自己の生きている姿を 偽りのないありのままの姿として掴んでいない人には、体育問題の解決の道はない。

#### 二、 健康教育の重要性（健康教育の価値は総合性にあり）

近年、学校教育において健康教育の重要性が叫ばれている。従来の「学校衛生」の狭い昆虫観察的概念は再検討されつつある。広義な内容を持つ俯瞰的な健康教育を全教官一致の努力と生徒父兄全員の積極的努力によってその目的が達成されるのである。

#### 三、 体育と健康教育（全人的、気の持ちよう）

身体教育は「身体を通しての教育」、あるいは「身体による教育」であって、ここに身体と精神との育成がある。すなわち人間性の発展を企図する教育、全人教育である。かくて新教育の領域を観察すると体育と健康教育は、明らかに交叉する部分と同時にまた独自の分野も残る。

ここに健康教育は、社会科、理科、家庭科と共にその成果をあげる糧にしなくてはならない。

終わり